

27年センター試験実施速報(平均点等「中間発表」)

27年センター試験“基幹3教科”平均点合計(中間集計/600点満点)

「国語+数学(I・A+II・B<旧課程含む>)+英語」は、 2.8点アップの344.4点(得点率57.4%)!

国語+18.8点、数学I・A-0.8点、数学II・B-14.6点、英語-0.7点/
文系志望者「理科基礎」(2科目)高得点：理系「地理B」大幅ダウン/
旧・物理Iと生物で得点調整の可能性!?

旺文社 教育情報センター 27年1月21日

27年センター試験(本試)が1月17日(土)・18日(日)の両日、全国690試験場で実施された。

今回は“脱・ゆとり教育”における最初のセンター試験で、数学・理科が新課程に沿って出題され、特に理科は出題科目や受験方法が大幅に変更された。そのため、数学・理科には既卒者に旧課程科目も用意され、出題教科・科目は6教科・40科目に及び、受験方法も複雑になった。

大学入試センターは1月21日、各科目の平均点等の中間集計を発表。旺文社は当データを基に、基幹3教科の国語、数学(I・A+II・B<旧課程含む>)、英語の平均点合計(600点満点)を算出。前年得点率5割を切って過去最低となった国語は18.8点の大幅アップに転じた。

一方、前年大幅アップした数学I・Aがダウンし、数学II・Bも大幅ダウン。英語もややダウン。

結局、国語と旧数学I・Aの大幅アップによって、基幹3教科の平均点は前年より2.8点アップの344.4点(得点率57.4%)となった。文系志望者は理科「基礎科目」(2科目受験)の高得点、理系志望者は地理Bの大幅ダウンで、それぞれの明暗を分かち結果になった。

■センター試験の志願状況

<志願者数55万9,132人、2年連続の減少>

- ① 志願者数、前年より1,540人減：27年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比0.3%減の55万9,132人で、2年連続の減少となった。

なお、受験者の最も多い外国語の「受験者数」は、52万4,211人(志願者の受験率93.8%)だった。

- ② “現役生”は2年ぶりの増加、“既卒者”は2年ぶりの減少：27年は高卒者数の増加に加え、大学志願率の前年並みが見込まれることから、現役生は2年ぶりに前年より1万2,074人(2.7%)増の45万5,392人だった。現役志願率は、過去最高の42.5%である。

一方、既卒者は、前年より1万3,186人(11.8%)減の9万8,728人で、2年ぶりに減少。

なお、高等学校卒業程度認定試験の合格者等の志願者は、前年より428人(7.9%)減の5,012人だった。

- ③ 志願者“やや減”の主な背景：

- 27年の18歳人口・高卒者数はともに2年ぶりに1.6%ほどの増加が見込まれ、高卒

者数は26年より約1万7,000人増の約106万8,000人が予測される(旺文社推定、通信制課程含まず)。

- 現役生の大学への進学志向を示す現役志願率は、23年(55.4%)～26年(54.9%)の4年連続で下降もしくは停滞(25・26年=54.9%)している。27年も進学志向が急激に高まることはないと思われるものの、前年並みの現役志願率が予測される。

一方、既卒のセンター試験志願者数は、前年の新課程を控えた“後がない意識”による安全志向、慎重出願で増加した反動によって大幅に減少した。

- これらのことから、27年は高卒者増による現役志願者“増”と既卒志願者“大幅減”が相殺し、前年より“やや減少”(0.3%減)した結果になったとみられる。

なお、27年のセンター試験利用大学・短大は、公立・私立各2大学増の国公私立689大学／私立2短大増の公私立160短大である(26年12月初旬現在)。

■「追試験」、「再試験」の実施

- 「追試験」は、病気や負傷、試験場に向かう途中の事故、その他やむを得ない事由により「本試験」を受験できなかった者を対象者として実施される。

27年の東日本地区は東京海洋大(品川キャンパス)、西日本地区は神戸大(国際文化学部)でそれぞれ1月24日(土)・25日(日)に実施される予定である。

- 「再試験」は、雪・地震等による災害、試験実施上の事故、その他の事情により、「本試験」が所定どおり実施できなかった場合に実施される。実施日は、「追試験」と同じ。

■科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1月21日)

大学入試センターが発表した27年セ試の平均点等の「中間集計」から、主なセ試科目の前年との平均点差等をもてみる。

なお、数学は新・旧科目における同一名称の科目間、理科は4領域それぞれにおける新課程の「基礎を付していない科目」(発展科目)と旧課程の「Iを付した科目」間の平均点差である。新課程「理科」の「基礎を付した科目」(基礎科目：50点満点)は、得点率としてみる。

- 平均点がアップした主な科目は、国語(前年の「中間集計」値との差。以下、同。+18.8点)、現代社会(+0.9点)、政治・経済(+0.8点)など。旧課程科目では、旧数学I・A(+6.8点)、物理I(+6.4点)、生物I(+1.4点)、地学I(+6.7点)と、軒並みアップしている。
- 一方、平均点ダウンの主な科目は、数学II・B(-14.6点)、地理B(-10.9点)、化学(-10.8点)、「倫理、政治・経済」(-8.6点)、倫理(-7.8点)、生物(-6.4点)、日本史B(-4.1点)、世界史B(-2.3点)、地学(-8.9点)、英語(-0.7点。「筆記」-3.1点／「リスニング」+2.3点)など。

旧課程科目では、旧数学II・B(-6.3点)、化学I(-6.0点)など。

- 24年セ試から地歴、公民、理科における各科目の得点には、「第1解答」と「第2解答」の得点が混在するため、各科目の平均点の実態が把握しにくい。

そのため、平均点の動向をみる一つの視点として、文系・理系に共通の“基幹3教科”である国語、数学(旧課程科目含む)、英語の平均点合計を算出した。

大学入試センターから発表された科目別平均点等の「中間集計」を基に算出した“基幹3教科”平均点合計(600点満点)は、次のとおりである。

●【国語 + 数学(数学Ⅰ・A + 数学Ⅱ・B) + 英語】：344.4点(600点満点)
(前年「中間集計」値との差：+2.8点。得点率57.4%／数学は旧課程科目含む)

- 27年セ試)では、次の各科目間で原則として“20点以上”の平均点差が生じ、これが“試験問題の難易差”に基づくものと認められる場合に「得点調整」が行われる。ただし、受験者数が“1万人未満の科目”は、得点調整の対象外とされている。

27年センター試験「得点調整」の対象

- (1) 地理歴史の「世界史B」、「日本史B」、「地理B」の間
- (2) 公民の「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」の間
- (3) 数学①の「数学Ⅰ・数学A」と「旧数学Ⅰ・旧数学A」の間
- (4) 数学②の「数学Ⅱ・数学B」と「旧数学Ⅱ・旧数学B」の間
- (5) 理科②の「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」、「地学Ⅰ」の間

「中間集計」時の上記の「得点調整」対象科目をみると、「物理Ⅰ」(旧課程科目)－「生物」(新課程科目)＝20.3点で、実施される可能性もある。

なお、「得点調整」実施の有無については、27年1月23日(金)に大学入試センターから発表の予定である。

■出願動向予測

- 27年入試は、根強い国公立大志向・地元志向のもと、景気の回復基調が伺える中、学部系統では相変わらずの資格志向と「文低理高」傾向が続きそうだが、法学系や経済系への人気も高まっているようだ。

セ試の文・理系共通の基幹3教科の平均点は3点程度アップしているが、理系志望者は受験者の比較的多い「地理B」と「化学」の大幅ダウンが出願に影響してこよう。

ただ、理系の既卒者には初志貫徹組も多いとみられ、難関国公立大(学部)の理系では少数激戦も予測される。

28年入試から数学・理科の既卒者への「経過措置」が講じられなくなるため、全体としては、既卒者も含めた文系・理系志望者とも“安全・慎重出願”が見込まれる。

次ページに「27年センター試験平均点等一覧」(中間集計)を掲載。

平成27年度 大学入試センター試験 平均点等一覧(中間集計)

<平成27年1月21日 大学入試センター発表>

教科	科目	平成27年(中間)		平成26年(中間)		平均点 対前年差			
		受験者数	平均点	受験者数	平均点				
基幹3教科 平均点合計(600点満点) 【国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語(200点換算)】		- (得点率)	344.4 57.4%	- (得点率)	341.7 56.9%	2.8			
国語(200点)									
	国語	215,747	116.4	230,826	97.6	18.8			
地理 歴史・ 公民	地理歴史(100点)	世界史A	654	48.2	665	47.9	0.3		
		世界史B	38,599	67.9	41,637	70.2	▲ 2.3		
		日本史A	1,098	45.0	1,132	47.9	▲ 2.9		
		日本史B	64,166	63.8	67,473	67.9	▲ 4.1		
		地理A	763	53.7	940	54.1	▲ 0.4		
		地理B	46,716	60.6	52,786	71.5	▲ 10.9		
	公民(100点)	現代社会	27,792	60.8	26,915	59.9	0.9		
		倫理	10,785	54.0	13,311	61.8	▲ 7.8		
		政治・経済	18,400	56.5	20,764	55.7	0.8		
		倫理、政治・経済	19,862	60.4	20,951	69.0	▲ 8.6		
数学	数学①(100点)	数学Ⅰ	2,123	33.3	3,425	41.7	▲ 8.4		
		数学Ⅰ・数学A	135,572	62.7	173,785	63.5	▲ 0.8		
		旧数学Ⅰ	369	32.7	3,425	41.7	▲ 9.0		
		旧数学Ⅰ・旧数学A	27,672	70.3	173,785	63.5	6.8		
	数学②(100点)	数学Ⅱ	2,093	23.2	3,021	33.8	▲ 10.6		
		数学Ⅱ・数学B	119,070	42.0	155,061	56.5	▲ 14.6		
		工業数理基礎	3	48.0	3	38.0	10.0		
		簿記・会計	257	64.1	364	60.7	3.4		
		情報関係基礎	125	51.2	115	60.9	▲ 9.7		
		旧数学Ⅱ・旧数学B	26,707	50.2	155,061	56.5	▲ 6.3		
理科	理科①(50点)	物理基礎	5,599	32.4	-	-	-		
		化学基礎	31,112	35.7	-	-	-		
		生物基礎	37,373	27.0	-	-	-		
		地学基礎	11,846	28.6	-	-	-		
	理科②(100点)	物理	56,065	62.3	74,068	63.0	▲ 0.7		
		化学	71,661	59.9	101,490	70.7	▲ 10.8		
		生物	27,462	49.1	69,286	55.5	▲ 6.4		
		地学	777	43.4	7,310	52.3	▲ 8.9		
		旧理科総合A	176	57.5	2,937	51.0	6.5		
		旧理科総合B	373	55.7	4,343	55.0	0.7		
		旧物理Ⅰ	15,303	69.4	74,068	63.0	6.4		
		旧化学Ⅰ	21,376	64.8	101,490	70.7	▲ 6.0		
		旧生物Ⅰ	10,246	56.9	69,286	55.5	1.4		
		旧地学Ⅰ	1,612	59.0	7,310	52.3	6.7		
		外国語(200点)	英語	筆記(200点)	237,285	118.5	244,100	121.6	▲ 3.1
				リスニング(50点)	231,917	35.7	244,018	33.5	2.3
筆+リ(200点換算)	-			123.4	-	124.1	▲ 0.7		
ドイツ語	97		143.7	90	150.5	▲ 6.8			
フランス語	116		149.4	102	162.8	▲ 13.4			
中国語	272		160.2	296	150.5	9.7			
韓国語	87		136.6	103	145.3	▲ 8.7			

<注>

- ① 英語の平均点(200点)は、「筆記」(200点)＋「リスニング」(50点)の250点満点を200点に圧縮換算。
- ② 大学入試センター発表の科目別平均点は小数第2位の表示だが、旺文社では小数第1位で表示。
- ③ 表中の「平均点対前年差」は、四捨五入の関係で「27年-26年」と一致しない場合もある。
- ④ ▲印はダウンを示す。なお、薄網をかけた科目は旧課程科目を示す。
- ⑤ 理科②の新課程科目(発展科目)の平均点差は、前年の旧課程科目(各Ⅰ科目)との差である。
- ⑥ 数学・理科の旧課程科目を含む「得点調整」対象科目における最大差は、「物理Ⅰ」(旧課程科目)－「生物」(新課程科目)の20.3点で、現時点では実施される可能性もある。実施の有無は、1月23日(金)発表予定。

旺文社 教育情報センター(平成27年1月21日)

